

【社会保険労務士法人 大槻経営労務管理事務所】

配信登録をいただきまして、誠にありがとうございます。

大槻事務所のメールマガジンをお送りいたします。

2012年9月号

*.☆

【目次】

▼不定期連載 所長 寺田晃のひとり言

▼大槻事務所だより 9月号

http://www.otuki.org/p_otsukidayori/pdf/vol42.pdf

http://www.otuki.org/p_otsukidayori/pdf/vol42_1.pdf

▼新連載！ 大槻事務所スタッフのおすすめの○○（第1回目） 三戸 礼子編

▼10月セミナーのご案内

▼不定期連載 所長 寺田晃のひとり言

オリンピックを観ながら

日本代表選手団が史上最多のメダル38個（金7、銀14、銅17）を獲得したロンドンオリンピックが8月12日に閉幕した。

内村航平選手が体操の個人総合で金メダルを獲得し、卓球界では3人娘が、バドミントン界ではフジカキペアが日本に初メダル（銀）をもたらした。また、今でもなでしこジャパン（銀）の爽やかさが忘れられない。日本に勇気と感動を与えてくれたロンドンオリンピックであったと思う。世界に目を向ければ、衝撃だったのはやはりジャマイカのウサイン・ボルト選手の陸上100m、200m、400mリレーの北京オリンピックに続く3冠連覇であろう。彼は「俺は伝説になった」と宣言した。身長が1m96cmで体重93kg...日本人が勝てるはずはないか...この快挙に異を唱えているのがロサンゼルスオリンピックで100mと200mを制したカール・ルイス氏（4年後のソウルで100mを連覇）。彼は、「ジャマイカの薬物検査は手ぬるい」と言っているそうだ。

もしもである。もしも史上最速の男・伝説の男となったボルト選手が、ドーピング検査で陽性反応が出たり、後日にコーチが禁止薬物を服用していたと告発をしたらどうなるだろう。その名声は一瞬のうちに色あせてしまうのである。

これは、企業においても同じで、ルール違反が新聞やマスコミに取り上げられてしまったら、これまで築き上げてきた「ブランドイメージ」は、あっと言う間に消え失せてしまう。

今、企業にはコンプライアンス（法令順守）とCSR（社会的責任）が求められている。要因はいくつか挙げられるが、一つには、心の時代になって消費者が企業に良心を求めるようになった。

法律すれすれでも利益を追求する姿勢が最近の消費者はイヤなのである。また、従業員の意識の変化で企業に対する内部告発が増えてきたことやコンプライアンスを重視する外資系企業との取引があたり前になり意識せざるを得なくなったこともそうだろう。

私ども社会保険労務士の専門分野である「労務コンプライアンス」について言うと、例えば退職した元従業員から未払い残業代や、退職・解雇について、①労働基準監督署へ訴えたり、②労働局の紛争調整委員会から「あっせん開始通知書」が届く、③突然ユニオン（合同労組）から団体交渉の申し入れがある、④弁護士や認定司法書士から内容証明郵便が届くといった、個別的労働紛争や集団的労働紛争が増えて来ているし、また、長時間労働による過労死・過労自殺もあってはならない問題だ。

一旦ブランドイメージが崩れると、再度取引先、あるいは従業員やその家族との信頼関係を取り戻すために長い時間を費やすことにもなる。

「ついうっかり」とか、「これくらいなら」、「他もやっているから」という甘い考えが通用しなくなってきているのは間違いないだろう。

迂闊にもこの度のロンドンオリンピックを観ていて、そんな事が頭をかすめてしまった。

それにしても、50万人を集めた銀座のパレードは、凄かった。私も手を振った1人である。

所長 寺田 晃

▼大槻事務所日より

9月号は「障害基礎年金」についての特集 と 社会保険料の変更のお知らせ です！

http://www.otuki.org/p_otsukidayori/pdf/vol42.pdf

http://www.otuki.org/p_otsukidayori/pdf/vol42_1.pdf

▼新連載！ 大槻事務所スタッフのおすすめの○○（第1回目） 三戸 礼子編

先日、「8月会」と称する女子会を催しました。場所は西麻布にあるフレンチレストラン「Les des (レデ)」。オーナーシェフの板垣さんとは助成金申請でレデオープンのお手伝いをさせていただいて以来のお付き合いです。

今回は「季節感あふれるシェフおすすめの料理」をリクエスト。いつもどおり、期待を裏切ることのない、おいしい品々が出されたのですが、とりわけ「ホワイトコーンの冷製スープ」は絶品でした。 ビシソワーズかと思わせるような白くまったりとしたスープ。ゆっくり口に含むと、強い甘みを感じながらも冷たく爽やか。コーンの香りがフーッと鼻に抜けて、なめらかに喉の奥に流れこみます。スープの上に乗っていた焼き色のついたつぶコーンを食べると、昔、夏の浜辺

でまるかじりした焼きトウモロコシの味がして、一人で夏の思い出も満喫。

夏の猛暑は、汗と一緒にミネラルや大切なものを体からどんどん奪っていきます。栄養学的事実はわかりませんが、「ホワイトコーンの冷製スープ」はそれを補うがごとく、体にスーッと浸透していったのです。「なんておいしいんだろう！！」板垣さん、ごちそうさまでした。

そういえば、そろそろスーパーの店頭で「なし（梨）」が並び始めました。私が住んでいる千葉県松戸市は、「二十世紀梨」発祥の地で、梨の生産がとても盛んです。「なし（梨）」のことを「ありのみ（有りの実）」と呼んだりもするのです。ちょっと粋ではないですか？松戸から市川に向かう通称「梨街道」では、この時季、道の左右の梨園で販売合戦が繰り広げられています。私は「豊水」という種類の梨を好んで食べるのですが、松戸産のそれを初めて食べた時は、「なんてみずみずしくておいしいんだろう！！」と、大感激。包丁の刃をいれるとすぐさましたり落ちる程の水分・栄養分をたっぷり蓄えた豊潤な梨が、夏の猛暑で失われたミネラルを充填し、体中の細胞を潤したのだと思います。今年はまだ食べたい気持ちがピークに達していません。まだまだ暑さが続くのかな。機（気）が熟した頃、私の好きな「豊水」も熟すと思います。

レデの「ホワイトコーンの冷製スープ」にしても、松戸の「なし（梨）」にしても、失われたものが体内に取り込まれたときには、本当に「おいしい」と感じるものです。秋はいろいろなものおいしく感じられる季節ですが、つまりは、体が、夏の暑さでいろいろなものを失っているってこと？ということは、やはり、秋の味覚を存分に味わって、エネルギーを満タンにして、ヘルスケアをしないとイケないのですね。

さて、わたしのおススメは、一冊の本です。

『ダンゴムシに心はあるのか』（森山 徹著・PHPサイエンス・ワールド新書）

秋は「食欲の秋」でもありますが、「読書の秋」でもあります。同じ理論でいくと、
『夏の暑さは本を読む気力を失わせる→知識の吸収がなくなってしまう、頭の栄養がとぼしくなる→涼しくなって知識欲を充たす本に出会えば、「おもしろい」から夢中で読書→エネルギー充填！』となるはず。

秋の夜長に心静かに読書にいそしみ、本から栄養分を吸収してメンタルヘルスケアをするのもよいのではないのでしょうか。

ただし、この本、「おもしろい」と感じるかどうかは、この夏に失ったもの次第ですが。

<三戸礼子（みとあやこ）プロフィール>

山口県出身。現在、千葉県松戸市在住。家族は夫1人。猫大好き（Kittyも大好き）。

先日、「平成の KO キング」坂本博之さんについての特集がテレビで流れていました。つらい幼少期を過ごされ、養護施設のテレビで見た光り輝くリングが忘れられず、ボクサーを目指されたそうです。世界タイトルマッチで、応援に駆け付けた同じ養護施設で育つ子供たちの応援の声と、どんなに打たれてもダウンしない坂本さんの映像に、私は感動して涙が出てしまいました。坂本さんの姿は、私がこの夏に失った何かを満たしてくれたようです。しかし、松戸産の「豊水」食べたくなくなりました。残暑厳しくなりますけれども引き続き熱中症などにどうぞお気をつけください。

編集・発行： 社会保険労務士法人 大槻経営労務管理事務所 加藤 悦子

問い合わせ：https://ssl58.heteml.jp/ipocket/form_otzuki/index.php?act=form_contactus

Web サイト：<http://www.otuki.org/>